

大会名 Competition	第36回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-102	Year Month Day Time 2023 年 5 月 3 日 10 : 45
場 所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チーム A		チーム B
開志国際	(46 1st 13 22 2nd 10 28 3rd 5 25 4th 15 0 T)	前橋育英
121 ○		43 ●

主審:Crew chief
高橋 和也 宮城
副審:Umpire
相澤 慎之介 秋田
升屋 章 秋田
テーブルオフィシャル:Table officials
能代科学技術

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	澤田 竜馬	cap	5	1	1	0	1	4	×	高草木 琉斗	cap	0	0	0	0	0
5	×	中島 遙希		17	1	7	0	1	5	ノ	ディアロ 阿慈素		0	0	0	0	1
6	ノ	フリッシュ ニコラス	聖	10	0	4	2	1	6	×	下山 純也		6	0	3	0	1
7	ノ	平良 奏龍		17	0	8	1	1	7	×	木 暮 凌 汰		0	0	0	0	3
8	ノ	藤山 拓翔		4	0	2	0	0	8	ノ	増田 聖大		8	1	2	1	0
9	ノ	遠藤 地紘		2	0	1	0	2	9	×	元木 琉生		2	0	1	0	0
10	ノ	北村 優太		7	1	2	0	3	10	ノ	吉野 綾馬		4	0	2	0	1
11	ノ	北本 慶志		0	0	0	0	0	11	ノ	菊谷 宗右		3	0	1	1	5
12	×	千保 銀河		2	0	1	0	0	12	ノ	片桐 柊哉		0	0	0	0	0
13	×	平良 宗龍		8	0	4	0	0	13	×	レバン ハオ		7	1	2	0	3
14	×	NNEBUFE KELVIN OHMELIE		14	0	6	2	0	14	ノ	永井 陸翔		3	0	1	1	0
15	ノ	SANNI OLUWASEGUN FARUK		10	0	3	4	0	15	ノ	丸山 颯太		4	0	2	0	2
16	ノ	矢作 悠吏		2	0	0	2	0	16	ノ	新井 呂依		0	0	0	0	2
17	ノ	前田 ヘンリー	有聖	18	2	6	0	1	17	ノ	山崎 創志		3	1	0	0	0
18	ノ	小泉 俊介		5	1	1	0	0	18	×	原澤 快吏		3	1	0	0	3
コーチ		富樫 英樹						0	コーチ		田中 亮多						0
Aコーチ		津野 祐樹						0									0
合 計				121	6	46	11	10	合 計				43	4	14	3	21

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking[Team]

1	18	14.88%	前田 ヘンリー	有聖
2	17	14.05%	中島 遙希	
3	17	14.05%	平良 奏龍	

1	8	18.60%	増田 聖大
2	7	16.28%	レバン ハオ
3	6	13.95%	下山 純也

Score ranking[Game]

1	18	前田 ヘンリー	有聖	開志国際	2	17	中島 遙希	開志国際	3	17	平良 奏龍	開志国際
---	----	---------	----	------	---	----	-------	------	---	----	-------	------

ウインターカップ優勝から今年も全国制覇を狙う開志国際と、能代カップ初出場の前橋育英。1Q、開志国際は#14ネブフィの高さを活かしたリバウンドシュートに支えられ、#4澤田の3Pなどで内外から得点を重ねる。一方の前橋育英は高さの前に及び腰になったところを突かれ、ターンオーバーが連発する苦しい展開。開志国際46-13前橋育英。

2Q、前橋育英は気持ちを立て直しインサイドへ果敢に挑むも、なお開志国際の高さがこれを阻む。#8増田、#15丸山が外角で決められるようになったものの、攻撃のリズムが掴めず伸び悩む。開志国際は#5中島のポストプレーや#17前田が積極的にルーズボール追いかけ得点に繋げる。開志国際68-23前橋育英で折り返し。

3Q、両チームともマンツーマンの当たりが厳しくなり、なかなか得点が伸びない中、前橋育英は#4高草木、#6下山を中心に攻撃の糸口を掴もうとするが、開志国際も#15サニの高さ、#17前田の3P等でペースを渡さない。開志国際の厳しいチェックに前橋育英はターンオーバーが増え、96-28、開志国際がリードを広げる。

4Q、前橋育英が激しいディフェンスからチャンスを掴むも、開志国際は高さとしリバウンド速攻で対抗。中盤、ルーズボールの際に前橋育英#6下山がミドルで得点を重ねるも、開志国際はメンバーチェンジでペースを立て直す。その後も開志国際は#10北村の3P等で得点を伸ばし、121-43、開志国際が勝利した。